

## 肝疾患患者の就労状況

研究分担者：徳本 良雄 愛媛大学大学院地域医療学 准教授

**研究要旨：**愛媛大学医学部附属病院では肝疾患患者を対象に、就労継続を主な目的とした社会保険労務士による就労相談を実施している。肝移植の対象である非代償性肝硬変および肝細胞癌の患者は、腹水、肝性脳症等の合併症だけでなく、全身倦怠感や食思不振、筋痙攣などの自覚症状を有することが多く、就労上の制限が生じている可能性がある。当院の就労相談症例を用いた検討では、肝臓以外の悪性腫瘍例よりも正規雇用が少なかった。移植時に離職している場合は、移植後の就労が難航する症例もあることから、より早期から雇用継続につながるように、就労・両立支援を提供する必要がある。

### A. 研究目的

愛媛大学医学部附属病院では、2014年10月より肝疾患患者を対象として、社会保険労務士による就労相談を週1回実施している。当院では、脳死/生体肝移植の実施施設であり、年間5～10例程度実施している。

これまでに、当院の肝移植実施症例の約半数が移植前に休職や退職を経験していることが明らかとなった。さらに、移植前の就労状況が、移植後の就労に大きく影響を与えており、就労を継続していけるように支援していくかが課題として抽出された。

肝移植希望症例に対して、病気と仕事の両立を図り、就労状況の改善を促すため、当院の肝疾患に対する就労相談を受けた、肝硬変、肝細胞癌患者の就労状況を調査し、問題点を明らかとすることを目的とした。

### B. 研究方法

肝疾患就労相談は当院内科外来の診察室で週1回、9時～15時で行っており、愛媛県社会保険労務士会の協力により社会保険労務士5名が交代で対応している。院外の患者・家族も参観することが可能であり、1回の相談時間は60分で相談料は無料としている。

相談を行った患者のうち、肝硬変もしくは

は肝細胞癌の病名が登録されている症例を肝移植候補と考えて、肝疾患以外の悪性腫瘍の患者との比較を行った。

### C. 研究結果

肝疾患患者を主な対象とした社会保険労務士による就労相談は2024年12月末時点で431件実施した。

そのうち、肝細胞癌を合併していない肝硬変は18例であり、肝細胞癌合併例は31例であった。肝疾患以外の悪性腫瘍は25例が相談を受けていた。

肝硬変症例は男性が12例（67%）であり、年齢分布は60歳代以上が28%であった。肝細胞癌合併例では男性が27例（88%）と多く、60歳代以上が55%を占めていた。悪性腫瘍例では、女性が13例（52%）と約半数を占めており、乳がん、子宮がん、卵巣がんが多くみられた。年齢分布は60歳代以上と40歳代以下がそれぞれ5例（33%）であった（図1）。

健康保険加入状況は、肝硬変が国保3例、協会けんぽ11例、組合3例、不明2例。肝細胞癌合併例が国保2例、協会けんぽ21例、組合3例、共済4例、不明1例。悪性腫瘍例が協会けんぽ9例、組合6例であった。

就労形態は、肝硬変が正規雇用9例（50%）、

自営業2例、パート/アルバイト4例、派遣1例。肝細胞癌は正規雇用20例(65%)、自営業1例、パート/アルバイト3例、契約社員4例、再雇用2例、不明1例であった。悪性腫瘍例は正規雇用18例(72%)、パート/アルバイト2例、契約社員2例、派遣1例であった(図2)。

図1 愛媛大学医学部附属病院における相談者の年代分布

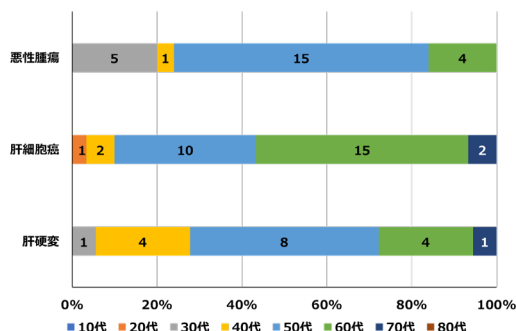
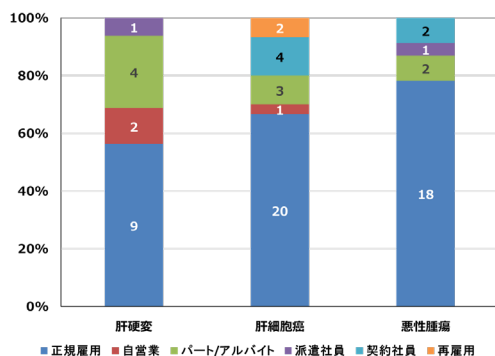
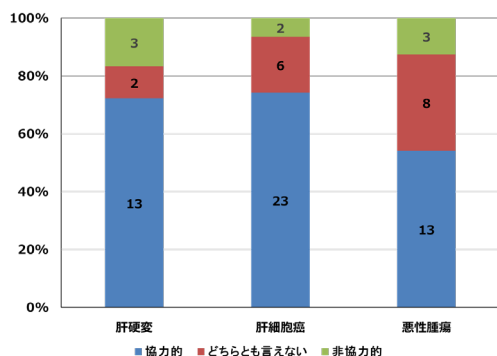


図2 相談者の就労形態



職場の雰囲気は、肝硬変患者の72%、肝細胞癌患者の74%、悪性腫瘍患者の54%が協力的と回答した一方、非協力的と感じている割合はそれぞれ17%、7%、13%であった。

図3 職場のサポート体制



## D. 考察

当院の就労・両立相談に参加した症例のうち、悪性腫瘍よりも肝硬変、肝細胞癌合併例は若年齢が少ない結果であった。

就労形態は悪性腫瘍例の正規雇用が72%に対して、肝疾患では50~65%と低率であった。以前、当院で行った肝移植例を対象にした後ろ向き調査では、約半数が移植前に休職や退職を経験しており、非正規雇用では移植後の就労が円滑に進まない症例があった。

職場の雰囲気が協力的と考えている症例の割合は悪性腫瘍よりも高率であったが、30%程度の症例が非協力的もしくはどちらとも言えないと回答しており、心理的な負担を感じながら通院している可能性が考えられた。

移植前の就労状況は、移植後の就労に大きく影響を与えており、いかに就労を継続していきけるように支援していくかが課題である。療養・就労両立支援指導料含めた病気と仕事の両立支援に関する更なる周知を行うと共に、移植を検討する前から、就労を継続していくための支援を継続して行っていくことが重要と考えられた。

## E. 結論

肝移植患者が移植後に病気と仕事の両立を図るためには、移植前の就労継続を目的とした支援を早期より提供することが求められる。

## F. 政策提言および実務活動

なし

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

- 1) 瀬戸山 博子, 榎本 大, 佐藤 光明, 佐々木 嶺, 磯田 広史, 徳本 良雄, 池上 正, 大原 正嗣, 井上 貴子, 井出 達也, 内田 義人, 加川 建弘, 立木 佐知子, 酒井 規裕, 永原 天和, 戸島

洋貴，井上淳，島上 哲朗，飯野 勢，  
橋本 まさみ，川田 一仁，末次 淳，  
澤田 康司，朝井 章，難波 志穂子，  
遠藤 美月，米田 正人，是永 匡紹。  
肝疾患診療連携拠点病院における肝炎  
医療コーディネーターの現状(第3報)。  
肝臓. 66 : 54-7 ; 2025.

## 2. 学会発表

なし

## 3. その他

### 啓発資材

なし

### 啓発活動

- 1) **徳本良雄**，愛媛大学医学部附属病院  
(看護部，栄養部，薬剤部ほか)，愛媛県  
薬剤師会，甘草の会，薬害肝炎訴訟原告  
団，B型肝炎訴訟愛媛原告団。日本肝炎  
デー、世界肝炎デー街頭キャンペーン。  
愛媛大学医学部附属病院肝疾患診療  
相談センター、愛媛県主催。  
2024年7月27日。松山市
- 2) **徳本良雄**，永井祥子，藤原亜矢子，  
吉田理，多田藤政，今井祐輔。日本肝臓  
学会主催。令和6年度肝がん撲滅運動  
市民公開講座。2024年7月28日。松山市。  
(現地 51名・Web 122名)

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし